

「解体新書」

清水さんの
初の正式社員誕生！



浜松まちなかマネジメント株式会社（浜松まちなかにぎわい協議会の法人格）初の専属社員として約140倍の倍率の中、昨年10月に入社した清水英貴さん。百貨店のバイヤーからまちづくりへ転身したという異色の経歴を持つ清水さんについて、自身の考えを伺った。

聞き手：辻琢磨
取材協力：手打ち蕎麦「たむ」
撮影：鈴木陽一郎
紙面デザイン：桑田亜由子

まちづくりに辿り着いたきっかけ
まずは簡単に自己紹介をお願いします。

清水 はじめまして、清水英貴です。今から35年前、浜松商業が春の甲子園で全国優勝した日、昭和53年4月5日に生まれました。東区、市野町出身です。実家は米屋で、自分で四代目です。妻、子どもは2歳と4歳の娘が二人います。今は同じ東区市野町に家建てて住んでいます。ローンもまだ始まったばかりです笑。

辻 そもそもどういう経緯で浜松まちなかにぎわい協議会に辿り着いたのですか。

清水 もともとの仕事はまちづくりとそこまで関係なかったんですけど、家族は男三人兄弟で、誰か一人くらい地元に戻ってこんかという話があって、自分は長男だし35歳で戻ろうと決意したことが直接のきっかけですね。まちなかマネジメントの募集を知って、それまで11年半は、伊勢丹百貨店に勤めていました。静岡で販促をやらせてもらって、活気ある商店街の方々と関わらせていただいた経緯があって、まちづくりというにぎわい協議会のキーワードは「おっ」と思ったんです。それ以前は食品催事（北海道展などの物産展）担当で、全国を回っておいしいものを探してお客様にご提供するという所謂バイヤーの仕事をしていました。「食」を通じて全国をめぐるイメージがありました。伊勢丹からは徹底したMD（マーチャン・ダイジニング商品）とお客様視点を学びましたね。集客がメインの部署だったということもあって、そういったことが、



特徴
昭和の男です。

趣味・特技
麻雀、ご当地グルメの紹介

座右の銘
左右の目
(2つの視点を持つ、という意)

好きな映画・ドラマ
男はつらいよ
刑事コロンボ

好きなアイドル
常盤貴子

好きな漫画
美味しんぼ

好きなスポーツ
野球

好きなゲーム
桃太郎電鉄

好きなスポーツ選手
西武時代の清原

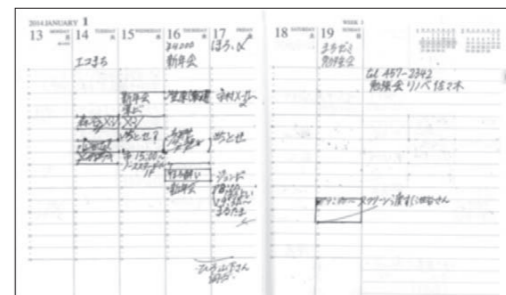
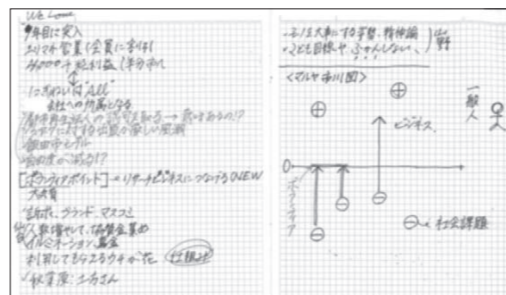
好きな音楽
ブルーハーツ
going steady

しみず・ひでたか
清水 英貴

身長：175cm
血液型：B型 (RH-)
年齢：35歳
生年月日：1978/4/5
星座：牡羊座

※着任から半年、清水さんはまちを歩き過ぎて撮影時に左足を負傷中でした。
(本当は家の前で転んだとのこと)

僕たちサラリーマンの強さは継続性



清水さんの^秘奮闘ノート

スケジュールには予定がびっしり。各所へのヒアリングにもメモは欠かせない。

ここでもなんとなくつながるかなと。それと、浜松に戻るのであればまちなかで仕事したいというのはありました。小さい頃から、仕事はまちなかでしたいと思ってたということもありますし、基本的に人ごみが好きなんです。だから、浜松のまちなかが寂しいのはもったいないと。郊外も発展して、人口も静岡県で一番多いですし、教育、医療も恵まれているのに何故まちなだけ元気がないんだと疑問に感じていたこともありますね。他の選択肢も考えたんですけど、そこにいくなら初めからいっていただが、伊勢丹に入ってから学んだことが活かせるかもしれないなど。なんだかおもしろい人生になってきたなと思つてますけどね笑。

知らないことをなくすための日々

辻 協議会での主な仕事はどのようなものですか？

清水 僕は浜松まちなかマネジメント株式会社の初めての専属社員で、他の局員の方は出向先に戻られて周

期が変わっていく中で、自分だけがずつといるという継続性は局長の河合にも大事だと言われていて、まずは知らないことをなくせと。だから最初2ヶ月くらいはひたすら、商店街、マスコミ、建築家、行政など、浜松のまちなかの人達へのご挨拶回りをしてきました。昨年の10月からこれまでに600枚くらいの名刺を配りましたね。そこで高校生だった96年以来、17年ぶりに街をひたすら歩きました。懐かしさも感じたのですが、当時はたくさんいたように思えた若い人が、いないなとすぐに感じました。

辻 半年やってみて、手応えやまちなかがこうなつたらいいのではないかという理想などつかめて来ましたか？

清水 よりいっそうこんがらがりました笑。今は脳みそに片っ端からまづくりの知識を叩きこんでいるので迷路に入り込んでいる時期だと客観的には認識しています。アウトプットよりもインプットの量が遥かに多いんですが、そこはすごく楽しいです。35にしてもう一度勉強を始めたようなもの。でも、街に来るお客さまとしての感覚は常に



とにかくまちなかが好きです、僕は。



清水さんの自分史

1978年	浜松市東区市野町に生まれる	
1991年	浜松市立与進小学校卒業	遠鉄百貨店オープン (1988)
1994年	浜松市立与進中学校卒業	野球少年だった アクティシティ完成 (1994)
1997年	静岡県立浜松西高校卒業	アムロ、ロンパケが流行って いて街には学生がたくさん ザザシティ西館オープン (2000)
2003年	早稲田大学卒業	浜松を離れて東京へ 松菱百貨店閉店 (2001)
2003年	伊勢丹百貨店へ	食品催事バイヤー、宣伝部などを担当 17年ぶりに浜松に帰ってくる イオン市野オープン (2005) イオン市野増床 (2008)
2013年	10月 浜松まちなかマネジメント株式会社へ	にぎわい協議会発足 (2010) 遠鉄百貨店新館オープン (2011) 名刺交換しまくり、600枚に
↓ 10年後 ↓		
2023年	12歳、14歳になる娘とにぎやかな街をデートする	
2038年	60歳で定年退職 (街からも卒業)	
2039年	家業の米穀販売復帰	
2048年	住宅ローン完済	

持っていますし、それを忘れるつもりもありません。

サラリーマンの強さ

辻 にぎわい協議会の印象深いところはどんな部分ですか？

清水 今までの仕事は決まりきった部分もあり、年次月次計画があって、売り上げ目標があって、それを達成することが仕事でした。でもこは、何もかんでも仕事になる、仕事をつくるのが仕事というか。それが新鮮です。あとは静岡銀行、浜松信用金庫、市役所、商工会議所、遠州鉄道というさまざまな企業のサラリーマンの方と席を同じにして目的を共有しながら一緒に仕事をするということは、普通のサラリーマン人生ではあまりできないことです。僕はいろんなサラリーマンが皆で集まって企業みたいに皆でまちづくりをやっていく姿がとても好きなんです。サラリーマンの強さは継続性です。とにかく目の前のことを義務化してやる。そうすると結果として永くやれる。あとはまちなかの有名人でもある河合・吉林の存在で

すね笑。入社するきっかけになった河合さんの言葉があって、「一番重要なのは、まちのことをずっと考え続ける人がいることなんじゃないかな。」というものです。この言葉で人生を決めました笑。

ザ・まちなかというモデル

辻 これからの浜松やまちについて思うことはありますか

清水 とにかくまちなかが好きです、僕は。まちが嫌いだったら、百貨店の仕事はしてないです。バイヤー時代に全国を回って、その場所場所で電車から降りた瞬間の風景は中心街はどこでも好きでした。特にお隣の静岡市は長くいましたけど、素晴らしいですよ。でも同時に、浜松っことだから、負けたくはない。静岡市にいたからこそ浜松をより意識したいと思っています。浜松にはやらまいか精神、祭りのパワーがあるから、皆が知っているまちづくりとは全く違う、新種のザ・まちなかというモデルを目指してこれから頑張りたいですね。